

情報モラル教育に向けて

今日、コンピュータは人々の生活の様々な場面で活用されています。
こうした中、児童生徒が情報社会での行動に責任をもつとともに、情報を正しく安全に利用できるようにするため、情報モラル教育は非常に重要です。
本研修では、情報モラル教育の基本的な考え方や指導内容について確認します。



■ 学習指導要領における情報モラル教育の位置付け

学習指導要領には、**情報活用能力**（**情報モラルを含む。**）を、言語能力と同様に「**学習の基盤となる資質・能力**」と位置付けられています。

学校においては、児童生徒の発達の段階を踏まえ、系統的な情報モラル教育に取り組むことが求められています。

記載箇所	記載内容
総則 第1章総則 第2	2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成 (1) 各学校においては、児童の発達段階を考慮し、言語能力、 <u>情報活用能力（情報モラルを含む。）</u> 、 <u>問題発見・解決能力等</u> の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

※中学校学習指導要領の記載内容は、小学校記載内容の「児童」が「生徒」となる。
※高等学校学習指導要領の記載内容は、小学校記載内容の「児童」が「生徒」となり、「各教科」の後に「・科目」が挿入される。
※特別支援学校学習指導要領（小学部・中学部・高等部）においても同様に規定されている。

※参考：令和2年6月「教育の情報化に関する手引（追補版）」（文部科学省）より

情報モラル教育の充実に向けた取組

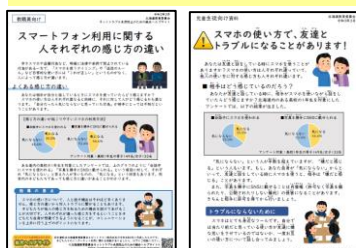
情報モラルは、「学習の基盤となる資質・能力」である情報活用能力に含まれるものであり、各学校においては**教科等横断的な視点に立った情報モラルの育成**が大切です。

情報モラル教育の必要性、目標、内容を確認した上で、例えば、次の4つのステップで情報モラル教育を進めることが考えられます。

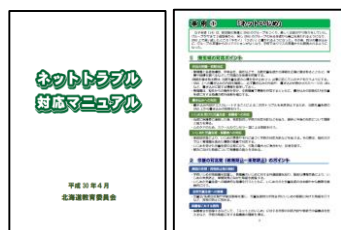
- Step 1 **子どもたちの実態の把握や整理**
「教師の観察」や「アンケート結果」などから児童生徒の実態を把握する。
- Step 2 **年間指導計画の作成**
児童生徒の実態を踏まえ、年間指導計画の作成や見直を行う。
- Step 3 **指導方法の検討**
授業や様々な場面での具体的な指導方法を検討する。
- Step 4 **指導と評価**
実際に指導を行い、その結果を今後の指導に生かす。

情報モラル教育の充実に向けた参考資料

指導資料、啓発資料
(北海道教育委員会)



ネット対応マニュアル
(北海道教育委員会)



情報モラル教育の指導資料等は、研修映像の中で紹介しています。



<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/net/net.html>



<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/net/net.html>